



⇒自然に内在する目的因・意思の命令(天命的・關係・宿命・D1)

⇒「模倣D2」即ち

「目的因の命令(宿命)/自己劇化」。

この様にアリストテレスの「自然・技術」論を捉へる事が可能となると、又、406上文「その混亂を整理し、抑制する價值觀を吾々は持つてゐない。アリストテレスはそれを自然の意思のうちに見出し、それに合致する様に社會生活を整へるのが政治や道德の技術であると考へました」云々の文章に遭遇すると、おのづとそこから連想が生じて、恆存の「全體(c)論」(「完成せる統一體としての人格」論)が小生には浮かんでくるのである。其處にはアリストテレスの影響が反映されてゐる様に窺へる。

注:「完成せる統一體としての人格」論は「テキストP10圖」を参照。